

**水害、紛争拡大による避難民増加など不測の事態を乗り越えて、「モロの村の保健ボランティア組織強化と技術向上研修の実施」2008年度事業 (WE21 ジャパンみどり助成) 完了**

2008年4月には熟練保健ボランティアのダンさんの心臓病悪化、6月のシギルの水害、10月の紛争拡大によるキアンバ村での避難民発生など、次々起こる不測の事態に対応しながら、モロの村の健康推進を図るパササンバオとの協働事業が3月末に完了しました。

困難な状況での事業完了は、①PIHSの3名の医療スタッフ(看護師ナプサさん、助産師ハムシアさん、助産師コース新卒のシャリファさん)と各村で育成された保健ボランティア(去年は8名が事業に参加)からなる人的パワー、②その臨機応変の活動を容易にした巡回診療車(2007年8月にHANDS寄贈)の存在、③ナプサさんの給与(約10万円)を支えて下さったWE21ジャパンみどりのご協力、④そして、会員の皆様の資金面での支え、これらがあって達成されました。ここに感謝申し上げます。

今年度も、WE21 ジャパンみどりより継続支援(20万円)をいただいてPIHSとの協働8年目の事業実施が決まりました。PIHS医療スタッフ3名の活動と保健ボランティア月例研修の継続を支える内容の事業です。現地の人的資源を最大限引き出して住民が健康な村づくりに参加できるように協力します。(山崎 (PIHSについては関連記事 P5も参照下さい))



**学んで、実践して、健康を守る!**

(ラッシュジャパン助成事業)

前号でお伝えしたCMIPと協働の保健・衛生研修。3



講師の話を真剣に書き取る

月19-21日の3日間、マトウトゥム山中腹のゴメロ村における研修に同行しました。近隣の村からも含め、88名の女性の参加がありました。

【1日目】医療相互

扶助保険組合(グリーンカード)の説明、母親として家

族の健康に気を付けるべきこと(子どもを危険な病気から守る、ワクチン注射について、ビタミンの重要性など)、妊娠・出産時の注意、トイレについて、衛生にすべきこと、応急手当の仕方【2日目】女性特有の疾患、泌尿器系の病気、発熱、衰弱時、出血、高血圧、へびに咬まれた場合、犬に咬まれた場合、やけどなどの手当の仕方、家族計画、ハーブ薬の作り方



【3日目】2日間の学びの総復習、母親クラブを組織し役員決定、ハンカチの贈呈と盛りだくさんの内容が、昼食と休憩をはさみながら行われました。要所、要所では質問が積極的になされ、年長者が自分の経験を語る場面もありました。また、これだけ集中できたのも、夫たちが協力的で昼食の用意をし、配膳してくれたからです。

「個々のトピックが良かった」「体系的に学べた」...小学校を終えることができなかった女性たちからこのような言葉を伺い、研修を各村で続けることができるよう考えたいと思います。(九島)

☆ CMIPヘルス定期支援 ☆

今年度14年目に入る医療定期支援は、医療自立支援会費60口(一口月額1,000円)から、助産師ジョジョが常駐するCMIPクリニックを通じ、約50村(8千人)における患者に対して、治療と入院費支援を行っています。簡易水道敷設や保健・衛生研修事業の実施により患者の減少を見込み2009年度は前年より50ドル減の月額600ドルの予定です。



1月報告より: <主な症例>インフルエンザと肺炎 12名、下痢による脱水症状4名、右足骨折1名、腸チフス1名。他合計34名支援。うち18名がG. サントス公立病院で、13名はCMIPクリニックで治療を受けた。グリーンカード収入730ペソ。

2月報告より: <主な症例>前月とほぼ同じだが、デング熱2名を含む合計34名支援。同じく多くはG. サントス公立病院で、軽症者はCMIPクリニックで治療。グリーンカード収入1,500ペソ。

3月報告より: <主な症例>前月とほぼ同じだが、肺結核2名を支援合計28名。グリーンカード収入2,450ペソ